

私の絵画

Figure of Kazuo Watanabe

渡辺一夫 Kazuo Watanabe

私の四十数年の画業は、めぐるましまでの画題やテーマ、様式の移り変わりであった。

それは私の場合の「絵画」は、その機能において、世の中の皆さんから愛され評価され、立派な市場性を夢見るといふ事と少し違って、きわめて私的で、毎日の生活の中の排洩表現の様な、つまり子供の絵の様なものだったからであろう。

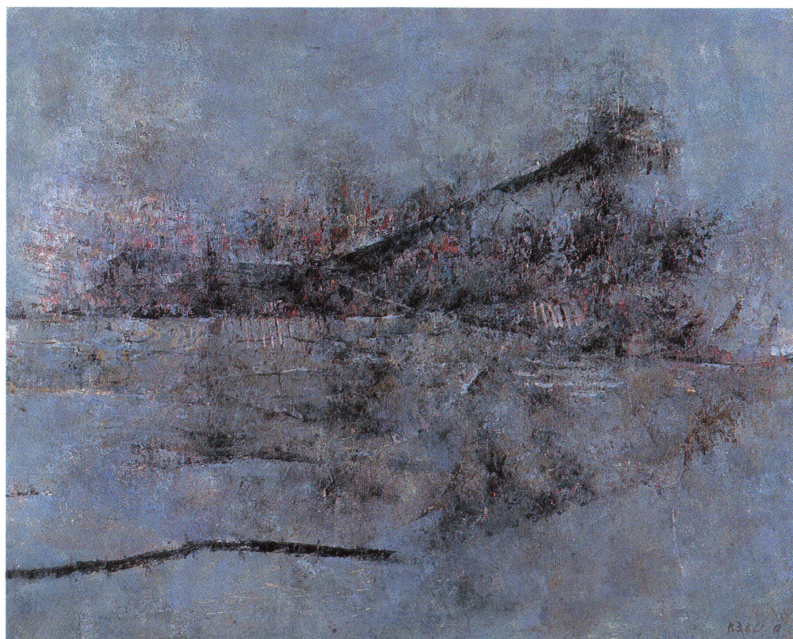
したがって、制作上の計画性や画題の統一意識は全くなく、常に「描きたいものを好き勝手なホルムで描く」という、生活感情の流れるままに任せたことが、この多様さの根っこにあるらしい。

この点について諸先輩から、作家としてのイメージの拡散とか、作家精神のムラ気と見られ、見る人の混乱、更には評価の確立されない点を指摘された。しかし、それ以上に描くことが大好きで、やむにやまれない衝動に追われ、どうしても世間的な才覚が働かないまま、今日に至ってしまった。やっぱり、幼児的な遊び絵の分野であったに違いない。

だから私の仕事は、ごく自然に「自画像、私風景、絵日記…」へとナイーブな「私絵画」の方向へ展開して行ったのである。



アンペラのある静物 F 40 1962



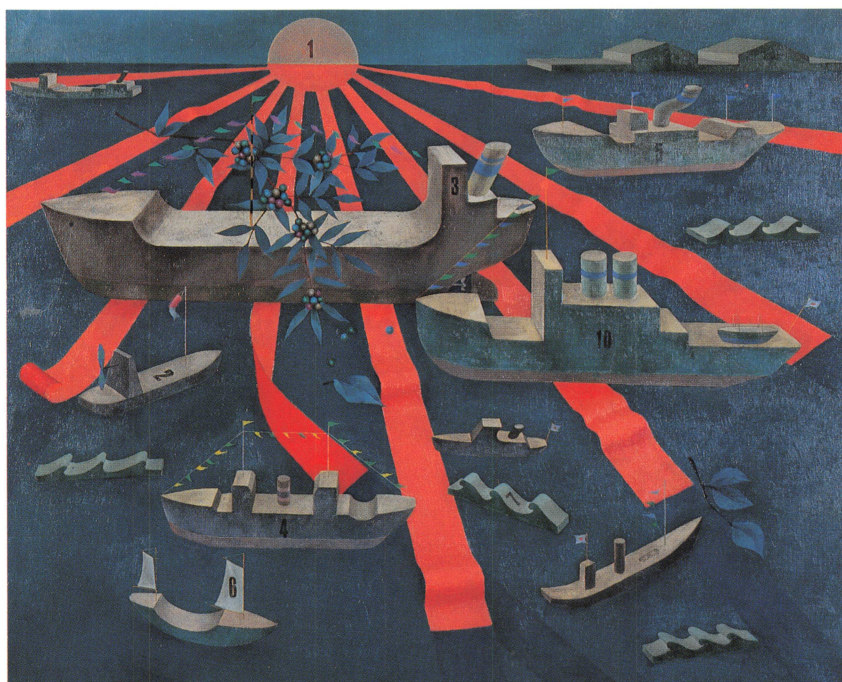
揚炭機 F 40 1961

なお、1959年（昭和34年）の伊勢湾台風以前の作品はすべて流失、それ以後のものの中から目立つものをエポック別にまとめてみた。

- ・ヒューマニズム、社会主義的傾向期 1960年代
- ・玩具に興味を持った傾向期 1970年代
- ・イソップを主題にして… 1975年代
- ・人力飛行機にひかれた傾向期 1980年代
- ・明日香など古代の形を… 1985年代
- ・私絵画へ… 1990年代



操車場 F 40 1970



みなと F 40 1970



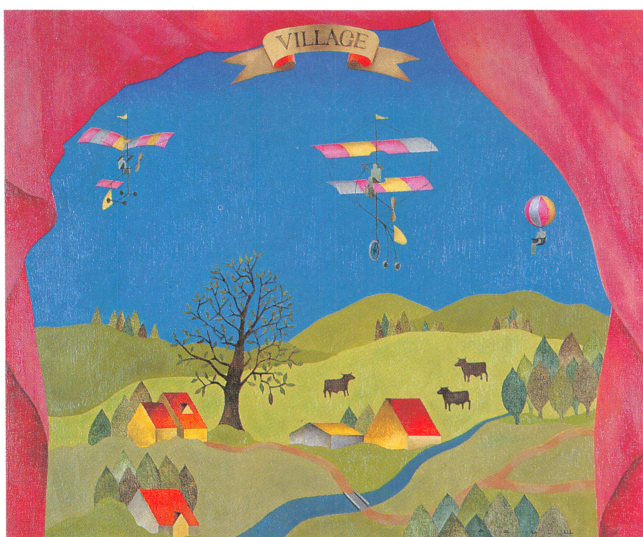
イソップ P10 1973



イソップ F10 1972



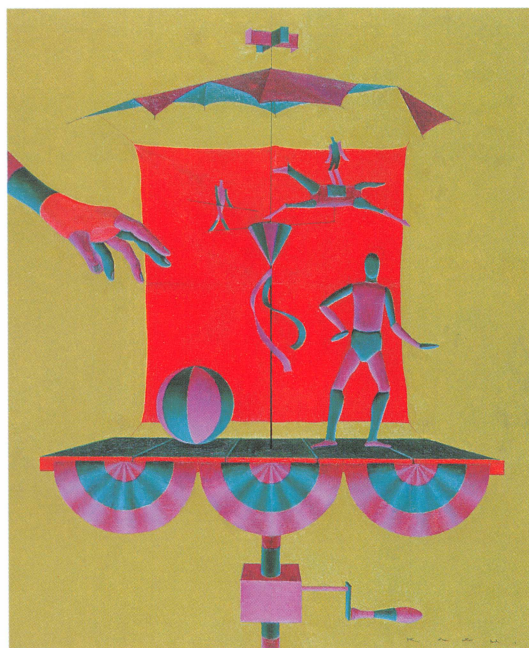
積木 F40 1971



人力飛行機 F 15 1977



人力飛行機 F 4 1976



ステージ F 20 1978



人力飛行機 F 20 1977



幡 F 20 1983



銅鐸 F 10 1983



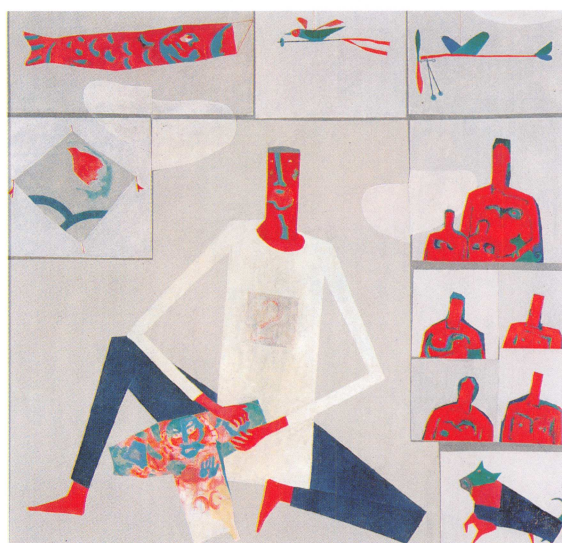
猿石 F 10 1981



絵日記 P 12 1995



絵日記 P 12 1995



風を作る自像 S 40 1993



標本を作る自像 S 40 1995

《執筆者紹介》

- (創作編) 岩本幸三 名古屋造形芸術大学助教授(彫刻)
加藤鉦次 名古屋造形芸術短期大学助教授(洋画)
坪井勝人 名古屋造形芸術短期大学助教授(彫刻)
渡辺一夫 名古屋造形芸術短期大学講師(教職課程)

- (論文編) 伊藤豊嗣 名古屋造形芸術短期大学助教授(グラフィックデザイン)
江本菜穂子 名古屋造形芸術大学助教授(西洋近代美術史)
岡田憲久 名古屋造形芸術短期大学助教授(ランドスケープデザイン)
加藤万堯子 名古屋造形芸術大学助教授(アメリカ文学)
小林亮介 名古屋造形芸術大学専任講師(ホログラフィー)
柴田正三 名古屋造形芸術大学教授(造形材料学)
高北幸矢 名古屋造形芸術大学助教授(視覚環境デザイン)
田代有樹女 名古屋造形芸術短期大学助教授(日本画・仏教文化)
松本 昇 名古屋造形芸術短期大学助教授(空間演出)
牧 博之 名古屋造形芸術短期大学助教授(フランス思想)
宮崎保光 名古屋造形芸術大学助講師(情報学)
宮田道明 名古屋造形芸術短期大学助教授(彫刻)

《研究紀要委員》

- 三頭谷鷹史
加藤万堯子
中村英樹
竹本紀明
藤田清孝
八代美智子